

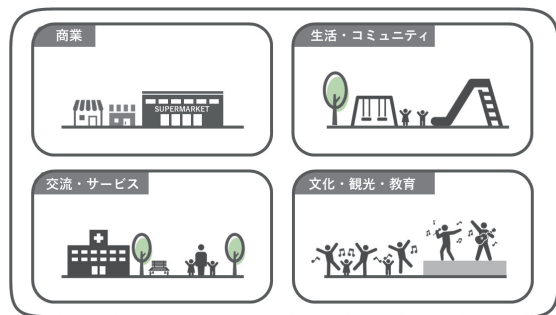
03 まちづくりの整備指針に基づく考え方

03 まちづくりの整備指針に基づく考え方

まちづくりコンセプト「歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり」を実現するための5つの基本的な考え方を示します。
各整備指針の具体的な内容については次ページ以降で示していきます。

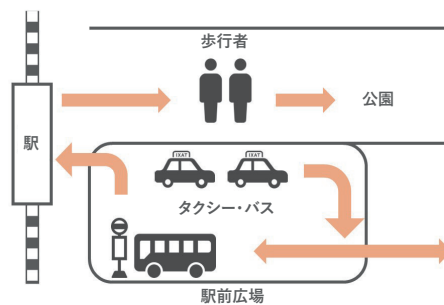
1. 機能	賑わいを創出する多様な機能集積	2. 動線・ネットワーク	公共交通機関との連携と回遊性の高い歩行者ネットワークの創出	3. 景観	既存工場などの立地特性を活かした街並みの形成
--------------	------------------------	---------------------	--------------------------------------	--------------	-------------------------------

東口周辺、西口周辺、生涯学習ゾーンの3つの地区で賑わいの好循環を創出していくために、周辺との機能分担と相互連携に配慮した機能集積を目指します。



東口に誘導する多様な機能

まちづくりコンセプトを実現するために、安全で効率的な交通ネットワークの形成を目指します。



歩行者優先の環境を実現するネットワークづくり

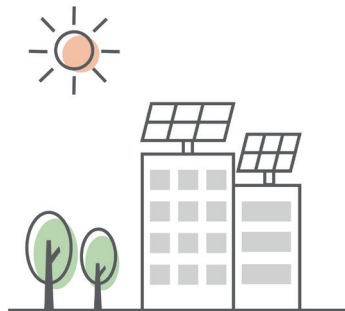
周辺の土地利用との連続性を意識し、歩行者の目線を重視し、古賀市の新たな玄関口にふさわしい街並みの形成を目指します。



周囲の街並みとの調和に配慮

4. 環境 脱炭素社会の実現に向けたまちづくり

J R 鹿児島本線が通る鉄道沿線の立地を活かしつつ、民間投資を促進させながら、都市の脱炭素化・エネルギー利用の合理化を目指します。



都市・交通の脱炭素化・エネルギー利用の合理化

5. 防災・防犯 安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

防災基盤の整備に取り組むとともに、昼夜を問わず、人の目が行き届きやすい環境を整えるなど、防犯面でも安全・安心に暮らせる都市基盤の構築を目指します。



安全・安心に暮らせる都市基盤の構築

1. 機能

賑わいを創出する多様な機能集積

●まちなか全体を巻き込んだ賑わいの好循環

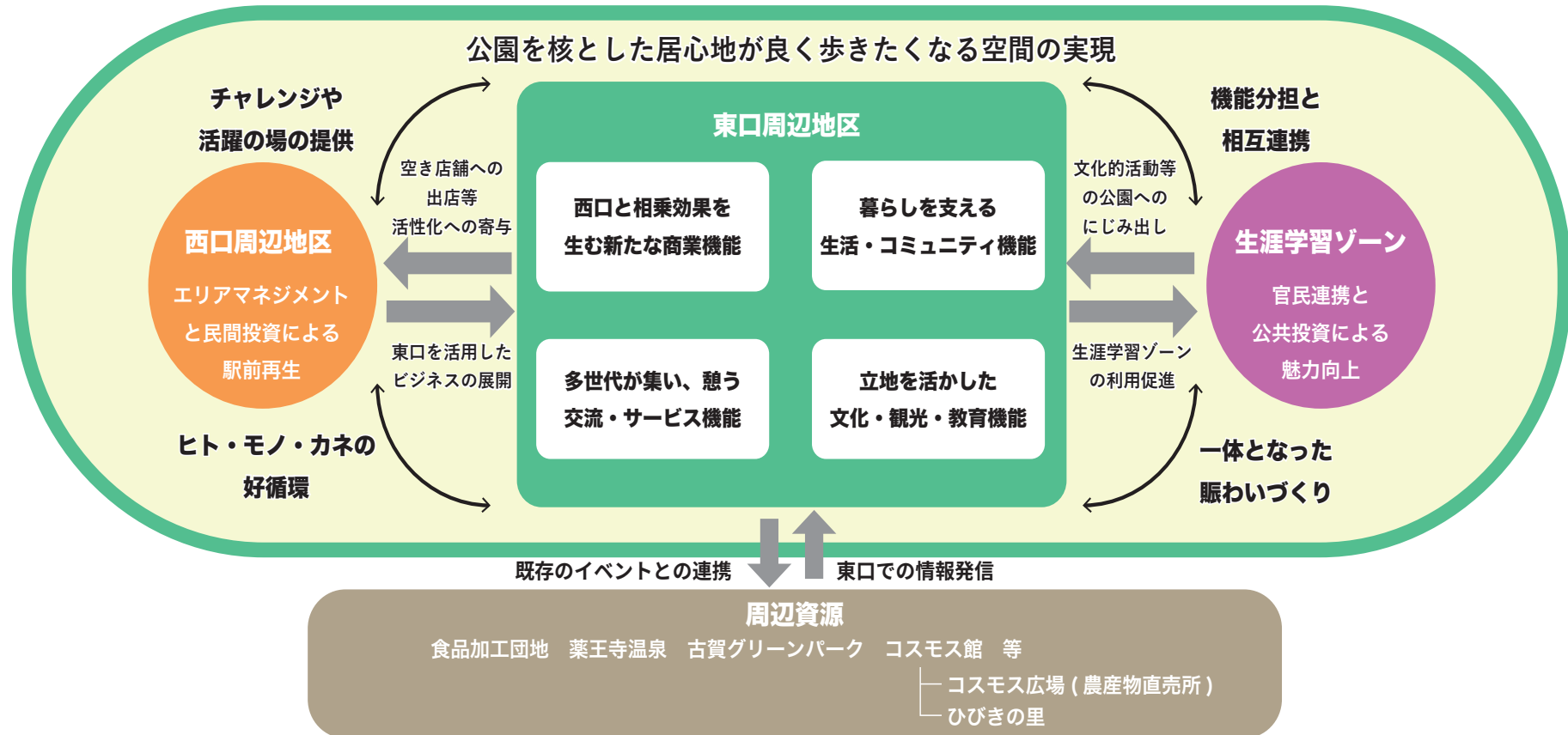
東口周辺、西口周辺、生涯学習ゾーンの3つの地区の役割分担を明確化し、個々の地区の活動や人材、機能が隣接する地区と有機的につながり、賑わいの好循環を創出していくために、周辺との機能分担と相互連携に配慮した機能集積を目指します。

また、まちなかの賑わいが市内全域に波及するように、東口での情報発信やイベント開催など、市内の周辺資源との連携を図ります。

●公園を核とした居心地が良く歩きたくなる空間の実現

東口周辺では公園を核とした居心地が良く歩きたくなる空間を実現するために、西口と連携しながら相乗効果を生み出す商業機能、多世代が集い、憩える交流・サービス機能、暮らしを支える生活・コミュニティ機能や立地を活かした文化・観光・教育機能を誘導します。

あわせて、隣接する地区の活動の受け皿となる空間づくりを意識します。



東口周辺地区に誘導する4つの機能

【西口と相乗効果を生む新たな商業機能】

- ・周辺の住環境への影響が大きな大型商業施設ではなく、地域住民の生活の質を向上し、公園と隣接することで魅力が高まる商業機能を誘導します。
- ・地域の若者の新規参入やチャレンジを促進するような小区画の店舗、公園内の仮設店舗等を積極的に誘導します。
- ・西口の既存店舗との連携や、駅前イベントへの出店など、東西の店舗連携を積極的に誘導します。

<機能の具体例>

ライフスタイル提案型店舗
スーパー、コンビニ
カフェ、ベーカリー
チャレンジショップ
キッチンカーなど



【暮らしを支える生活・コミュニティ機能】

- ・主に子育て世代を中心とした世代に自分らしい暮らし方を実現してもらうため、生活をサポートする機能を誘導します。
- ・公園の緑や賑わいを感じることができる住宅機能を誘導します。
- ・子どもたちが安全に遊ぶことができる空間や子どもたちをゆるやかに見守ることができる空間を整備・誘導します。
- ・コワーキングスペースなど、リモートワーク等の多様な働き方にも対応した空間を誘導します。

<機能の具体例>

多様な住居
遊具広場
ワークスペース
スポーツジム
リラクゼーションなど



【多世代が集い、憩う 交流・サービス機能】

- ・多様な世代の人々が来訪するきっかけとなる施設や、人々の交流を促す機能、日常的に憩うことができる機能を誘導します。
- ・まつり古賀や地元の祭りなどの既存のイベント、フリーマーケットに活用できる広場空間や休憩スペースを整備・誘導します。
- ・多世代が安心して健康に過ごせるように子育て支援施設や医療福祉施設を誘導します。

<機能の具体例>

公園
イベント広場
芝生広場
保育園、こども園
病院、クリニックなど



【立地を活かした文化・観光・教育機能】

- ・鉄道駅や生涯学習ゾーンに隣接した立地を活かし、地域の人々や来訪者が古賀市の文化や観光情報に触れることができる機能を誘導します。
- ・生涯学習ゾーンと連携し、市民の様々な活動を屋外でも披露・発表できる場を整備します。
- ・市内の周辺資源に関する情報発信を行うデジタルサイネージや、多言語化対応したサインを整備します。

<機能の具体例>

アンテナショップ
カルチャースクール
ステージ
ギャラリーなど



賑わい創出につながる古賀市の取組み

古賀市では、本市の強みを引き出し、まち全体の魅力を高める取組みとして、ＪＲ古賀駅東口周辺の整備だけでなく、様々なプロジェクトを推進しています。以下、その概要をご紹介します。

■ＪＲ古賀駅西口活性化プロジェクト

西口エリアでは、地域の方々の参画を促すとともに、取り組む方向を示した西口エリア活性化ビジョンを策定しています。西口エリアの商店主などから構成される実行組織により、まちの賑わい、豊かなくらしの向上に資する様々なプロジェクトが展開されています。



ダンス教室をリノベーションしたシェアスタジオ



高校生による空き店舗活用

■生涯学習ゾーン整備プロジェクト

東口エリアにあるリーパスプラザこが（中央公民館、交流館、図書館・歴史資料館）・市民グラウンドなどの一帯を「生涯学習ゾーン」と位置づけて施設整備がされてきました。公共施設の更新、管理運営については、民間活力を積極的に取り入れた検討が進められています。



生涯学習ゾーンの全景

■薬王寺温泉・インキュベーション促進プロジェクト

古賀市東部にある薬王寺温泉の旅館「快生館」をインキュベーション（新規創業・新たなビジネスの創出の支援）施設としてリノベーションしました。テレワークの浸透など働き方の変化を捉え、シェアオフィス、コワーキングスペース等として活用し、市への移住・定住や交流による地域活性化を促す新たな取組を展開しています。



浴場に隣接して入居者同士の交流を促す共有スペース

■観光・物産・情報発信の拠点形成プロジェクト

コスモス館を含めた古賀グリーンパークとその周辺について、観光の視点も含めた開発の可能性を検討し、官民の相乗効果で、農業・商業・工業それぞれの特性を一体的に引き出す拠点形成を目指しています。また、「食」をテーマとしたお祭りに、古賀市鹿部の福岡食品加工団地周辺で開催される「古賀モノづくり博 食の祭典」があります。工場団地内の有名企業などが出店、お得な価格の食品やコラボ商品を販売しており人気イベントとなっています。



農産物直売所「コスモス広場」



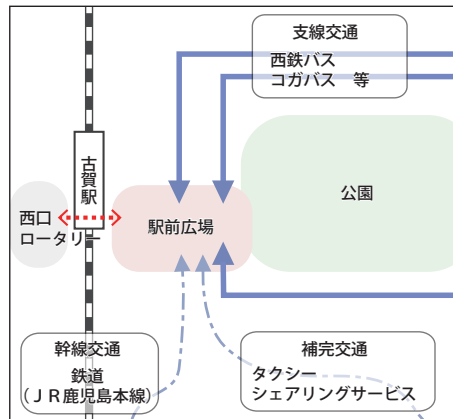
古賀モノづくり博 食の祭典

●歩車分離を意識した交通ネットワークの形成

まちづくりのコンセプトである「歩きたくなる 暮らしたくなる 居心地の良い まちづくり」を実現するために、安全で効率的な交通ネットワークの形成を目指します。

【駅前広場を起点とした公共交通ネットワーク】

- 公共交通の利用促進、利便性向上を目指し、駅前広場の整備に合わせて、鉄道と西鉄バスやコガバス等が円滑に乗り換えられるような環境整備に取り組みます。
- 駅前広場は、古賀駅に近接した位置に配置し、自家用車、バス、タクシーの転回スペースや乗降スペース、タクシープール等を効率的に配置できる規模とします。
- 駅前広場の整備と併せて市街地とのアクセス性に配慮した、路線バスのネットワークを検討します。



駅前広場を起点とした公共交通ネットワーク

【歩行者ネットワーク】

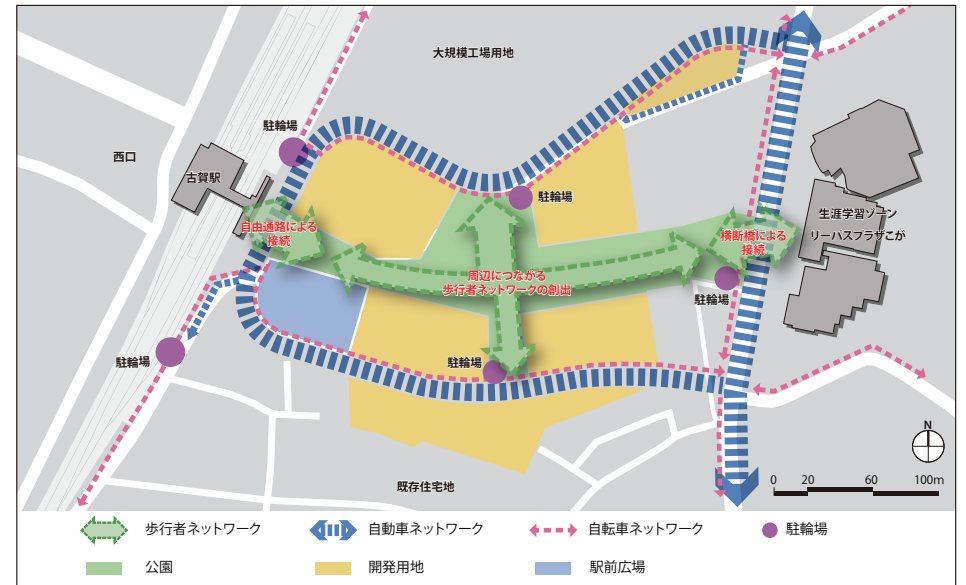
- 自由通路による駅東西のアクセスの充実を図るとともに、駅から生涯学習ゾーンまでの区間を、歩行者が安全かつ快適に回遊できる歩行者空間を整備します。
- 自由通路や横断橋については、歩行者が西口から東口、生涯学習ゾーンまでスムーズに移動できるよう整備し、公園に直接アクセスできるようにします。
- 工場に面する北面及び既存住宅地に面する南面に対して公園の間口を計画することで、南北方向からもアクセスしやすい公園として整備します。

【自転車ネットワーク】

- 古賀駅を利用する方のための駐輪場は、古賀駅に近接して南北に配置することで駅前空間への自転車の流入を抑制します。
- 公園を利用する方のための駐輪場は、各方面からの来訪に配慮し、公園の出入口に分散して配置することで、自転車利用者と歩行者との動線の交錯を防ぎます。

【自動車ネットワーク】

- 地区内に通過交通が発生しないような道路形状とします。また、公園と道路が面する箇所を少なくすることで安全な公園空間を確保します。
- 開発用地内における駐車場の適正化を図ります。



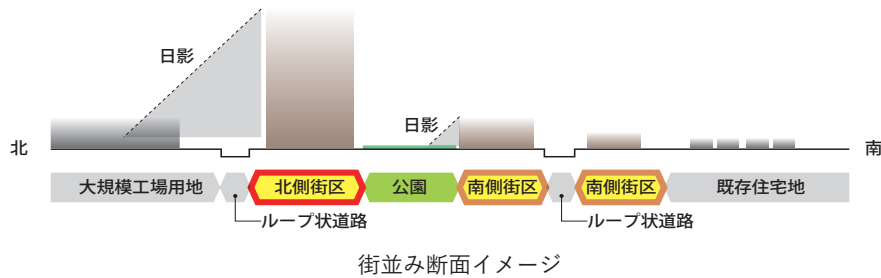
歩行者・自転車・自動車ネットワーク

●周辺の土地利用等と調和した街並みの形成

周辺の土地利用との連続性を意識し、調和した街並み形成を図るとともに、歩行者の目線を重視し、古賀市の新たな玄関口にふさわしい街並みの形成を目指します。

【街並み形成に資する街区整備】

- ・北側街区は駅直近という立地を活かし、拠点性が感じられるような高層建物による街並みの形成を図ります。
- ・南側街区は開発による新たな建物と既存住宅地との街並みの調和に配慮し、高さを抑えた街並みの形成を図るとともに、公園や既存住宅地への日照環境に配慮した建物高さを設定します。



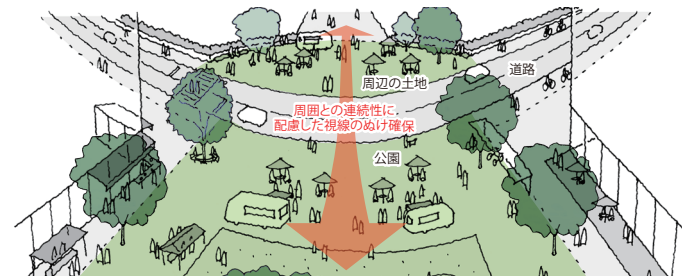
平面イメージ

【緑の連続性の確保】

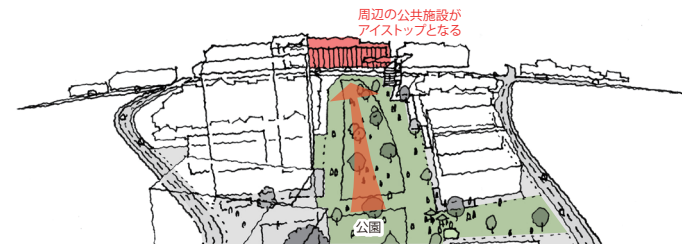
- ・街路樹や敷地際の植栽、壁面緑化により、地区全体で緑が連続しているように感じられる街並み形成を図ります。

【眺望・視線の抜けの確保】

- ・公園内外に続く視線の抜けを確保し、奥行きのある景観をつくるため、建物や植栽配置における周囲との関係に配慮します。
- ・周辺の公共施設がアイストップとなるように、公園からの見え方に配慮します。
- ・歩行者からの目線と、デッキや建物からの立体的な視線のつながりにも配慮します。



奥行きのある景観のイメージ



公園からの周囲の建物の見え方のイメージ

●官民連携による脱炭素化の推進

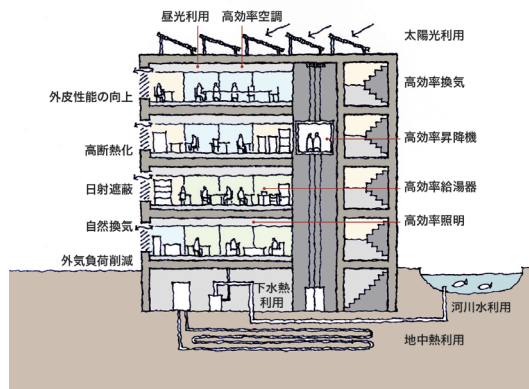
J R 鹿児島本線が通る鉄道沿線の立地を活かしつつ、民間投資を促進させながら、都市の脱炭素化・エネルギー利用の合理化を目指します。

【都市機能の集約化】

- ・賑わいを創出する多様な機能を誘導するために、脱炭素社会の実現に向けたまちづくりへの貢献にも配慮し、環境に配慮した公共施設の整備や民間施設等の立地促進に取り組みます。

【建築物の脱炭素化】

- ・ゼロカーボンシティ実現に向けた取組として、「新築される建築物については ZEB¹⁾ 基準の水準」の確保を目指すとし、公共建築物の将来的な更新、施設管理における省エネや再エネの導入について積極的に取り組みます。
- ・民間開発が予定されている区画での整備や古賀駅周辺地区の開発にあたり、民間等の先導的な脱炭素建築物・創エネ・省エネ住宅等の立地の促進を図ります。



ZEB 実現に向けた建築計画の工夫

【緑の保全・緑化の促進】

- ・二酸化炭素の排出量削減やヒートアイランド対策等に配慮し、既存樹等の保全や緑化の促進に取り組みます。



大クスノキの保全



立体的な緑化のイメージ

【エネルギーの効率的利用の促進】

- ・地域エネルギーを賢く使うスマートコミュニティの展開を見据えて、太陽光発電や蓄電池等、効率的な新エネルギー・省エネルギー機器等の設置に取り組みます。

【環境教育・環境保全活動の推進】

- ・ハード整備以外にも、公園を活用した参加型体験型の環境教育・環境保全活動の促進など、ゼロカーボンアクションに関する環境教育・環境保全活動の充実に取り組みます。

【注釈】 1)ZEB

Net Zero Energy Building の略称で「ゼブ」と呼びます。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した建物のことです。

●災害に強い防災基盤等の整備

不測の大規模な自然災害（風水害、地震、土砂災害等）や人為的な火災等を想定し、必要な防災基盤等の構築を目指します。整備にあたっては、平時の防災訓練等への活用に十分配慮するだけでなく、魅力ある都市空間として維持できるような創意工夫に努めます。

【一時避難場所となる公園整備】

- ・地震、火災等に際して、地域住民の身近な一時避難場所として公園が活用できるように、救護用のテント等が設置しやすいオープンスペースを確保するとともに、子育て世代や高齢者等も利用しやすいトイレ、防災面に対応した設備等を設置します。また、公園内は透水性舗装を用いる等、大根川からの浸水被害軽減に配慮した計画とします。

【救援物資集積拠点となる公園整備】

- ・市内で比較的大規模な風水害、地震、土砂災害等が発生した場合、救援物資等を運ぶ拠点として公園が活用しやすいように、防災倉庫などを設置するとともに、物資や避難民等を運ぶ緊急車両等の利用を想定したオープンスペースの確保に取り組みます。



イベントスペースとして活用される緊急車両用駐車スペース

●防犯まちづくりに資する環境整備

昼夜を問わず、人の目が行き届きやすい環境を整えます。

【見通しのよい環境づくり】

- ・死角が生じるような建築物や工作物の設置、樹木の植栽は行わない等、子どもたちをゆるやかに見守ることができる見通しの良い環境を整えます。



視線を遮らない植栽

【夜間照明の充実】

- ・駅と生涯学習ゾーンを結ぶ公園等を中心として、ポール灯、フットライト、地中埋没型器具等を設置し、夜間景観を演出するだけでなく、暗がりを無くし、まちなかの安全・安心を高めます。



防犯にも資する夜間照明

●デジタルを活用した地域の情報発信機能の導入

地域のお知らせや、有事の際の災害情報、避難情報などのほか、市内の必要な情報が見れるようにデジタルサイネージなどを整備します。



デジタルサイネージなどの整備